様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３４０４０２５

研究課題名（和文）中国における社区参加と自律改善のための選択可能な社区空間マネジメント

研究課題名（英文）Community management for citizen participation and self-governing improvement in China

研究代表者
佐藤　滋（Satoh, Shigeru）

早稲田大学・理工学術院・教授

研究者番号：６０１３９５１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　10,600,000円、（間接経費）　3,180,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、社区に着目し、組織化された社区運営体制を持つ杭州市と、自律的な社区改善がうまれつつある上海市を対象として、研究を行うものである。杭州市では、「社区参加プロジェクトの実践を通したアクションリサーチにより、参加の態勢と手法のあり方を明らかにする」ことを目的として、現地大学と協力して現地調査を行い、かつ実際にコミュニティに対する実験的社区参加のプログラムを行った。
一方上海市では、すでに自律的な社区改善が自然発生的におこっている地域を対象として、現地調査をおこなった。（インタビュー、空間利用の調査など）３年間の継続的な変遷調査の結果として、地域特性と自律的変化の実態について分析した。

研究成果の概要（英文）：This research project put focus on "Community", called "Shequ" in Chinese, in China. The target areas are: (1)The city of Hangzhou: the city has a long history of institutional community management system, and (2)The city of Shanghai:the city started to have more self-governing improvement of environment by community. In Hangzhou, we conducted action research to find the methodology of community participation collaborating local universities. We interviewed local people, authority, and house owners. We also had an experimental workshop with community. In Shanghai, we had field survey in the areas where self-governing improvement occurred spontaneously. We conducted interviews with local people, and spatial studies.In the result of three-year-research, we displayed the actual condition of improvement by community members in Shanghai.

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：コミュニティ　地域改善　市民参加

１．研究開始当初の背景

中華人民共和国では、行政が旗振り役となって地域開発を行い、土地を売却することで莫大な利益を得ると共に、民間による地域環境改善を享受している。その中では、地域開発の歪みが生じ、まだらな開発の中でコミュニティとしての役割を問われる社区の存在がある。日本での中国研究は、社区レベルの視点からコミュニティの現状実態を明らかにした研究（威他「上海静安区における里弄住宅の更新による居住者の住環境の変化に関する考察」日本建築学会計画系論文集、2006）もあるが、研究の多くは上海の里弄や北京の四合院など、建築計画的視点から見た伝統的居住環境の調査である。コミュニティ・まちづくりの視点からその居住環境のひずみに着目し、社区の存在意義を明らかにした研究は行われていない。

また、中国でもこういった都市内のひずみをどう解消し、防止するかという視点から、市民参加の必要性について気づき始めており、いくつかの市民参加について取り上げた雑誌論文がある。例えば、「城郷建設」2010 年２月号では蘇州科技学院の鄭らによって「蘇州“老新村”改造的和諧之路」と題し、蘇州の老朽化したニュータウンでの住民参加について実態が述べられている。また、都市計画の視点だけでなく、社会科学的な視点からも、南通大学の陸らが「我国城市規划中的公众参与問題研究」（湖南工程学院学報, 2008）として、市民参加の今後の戦略について社会科学的な立場から全体的に論じている。また、我々が研究対象とする上海市での市民参加の論文として、趙らの「我国城市旧住区漸進式更新研究、理論、実践与策略」（「国際城市規制」、2010）があり、キーワードとして「漸進」と「実践」が用いられているなど、参加の手法に関して、実践を通した今までにない理論化を行おうとしている状況が伺える。ただし、本論文などは地域環境改善プロジェクトを目的とした「公聴会」を「参加」の意味と捉えており、真の市民参加の研究にはまだ遠い段階にある。

これまでは、経済成長と共に、行政による高度開発を進める必要があり、社会システムもそれを良しとしていた。しかし、高度開発とまだらなジェントリフィケーションのもと、社会的なひずみが一つの都市の中でも生じてきていることは明白である。こういった状況の中で、上記のようないわゆる「参加」を試みようとするのは当然のことであり、また、社会の成熟度からもそれを許すべき段階に来ていると考える。

よって、社区における参加の態勢と手法についてモデル化し、選択可能な社区運営について考える時期が来ていると言える。杭州で現在このような動きが顕著であり、地元の浙江大学の協力を得ることが可能であることから、社区参加の研究を、杭州で実践を通して行うという着想に至った。

また、我々はこれまで上海市を中心とした長江デルタ地域の社区に着目し、地域改善の手法を研究してきた。本研究の中で住民の調査、及び参加型の調査などを地元大学の協力のもと行い、住民の生活と地域改善に関する実態を明らかにしてきた。その中で、住民が自律した居住環境の改善を行いながらも、まだらな環境の中で、社区の「質」をどう担保するかという悩みを抱えている実態が明らかになった。行政側も財政的な面から改良型の地域再生を行うのは不可能であり、住民の自律的な改善を期待しているということもあった。さらに、行政と住民をつなぐ中間支援の役割として、居民委員会の存在があり、福祉や安全、生活支援の面で、地域で大きな役割を果たしていることが分かった。居民委員会は各社区に存在し、住民のセーフティーネット的な役割を果たしており、こういった社区制度の持つ強みを分析発見することが重要であると考えた。また、中国の都市部の特徴である超高密度で用途の複合した居住環境の再生は、我が国の木造密集市街地の論理とは異なる可能性があることから、我が国の地域再生にも新しい知見を得られると考え、自律した社区空間マネジメント研究の着想に至った。

社区運営でも、特に上海市では中流化が進み、田子坊に代表されるように新しい価値観のもとに古い建物を改善し、新しい用途に転換する事例が増えてきた。これらは自発的な動きが高密度な創造圏を形成するものであり、これもまた社区運営の新しい動きである。こういった多様性を内包した自律改善の実態も明らかにするべきであると考える。

２．研究の目的

本研究は、中国型のコミュニティ参加のまちづくりの骨格と発展方向を提案することを目的とする。まず現状実態を明らかにするために調査する点として、次のようなことが挙げられる。

第一に、<u>実践から明らかにする社区参加の態勢とプログラム手法</u>である。中国では前述のように、「参加」の意味が異なり、真の社区参加が行われているとは言えない。しかし、「居民委員会」や「街道」など、地域運営の組織は強固に構築されており、社区参加の態勢を構築することは可能である。また、態勢モデルと共に、参加のプログラムを提供することで、安定した社会形成のインフラとなり得る手法を現地大学と協働で形成する。

第二に、<u>自律的な社区改善と運営の主体と手法、空間の実態解明</u>である。行政による「参加」ではない自律的な社区改善の動きが、多様性の大きな上海では生まれている。こういった動きの実態を主体と手法、空間の面から明らかにする。

第三に、<u>社区空間マネジメントの空間・態勢提案</u>である。以上のような「参加」と「自律」による社区改善の分析を踏まえ、選択可能な

社区改善の実態を可視化し、空間と態勢という点から実現可能で、持続可能な社区改善のあり方を提案する。
以上の研究実践から、社区におけるオルタナティブな地域再生のモデルを最終的に明らかにする。

３．研究の方法
研究対象国は中国とし、拡大する中心部に高度開発と古くからの町並みが隣接する上海市と、整備されたコンパクトなインナーシティを持ち、先進的に市民参加が広がりつつある杭州市で研究を行う。研究対象は各市の中心部とする。各地域の位置づけは次の通りである。
まず上海市は 2010 年の万博に伴って進められた交通基盤整備に伴った高度開発がますます進む中で、まだらに残された里弄と呼ばれるような古くからの居住地域は劣悪な環境に晒されている。その一方、上海市は歴史保全地域「歴史風貌地区」を１３カ所指定し、古くからの町並みが高度開発に隣接する状況を生み出している。こういった保全地域とそのエッジでは、自律的な小さな地域改善が進んでいる。一方、杭州市は建国後初めての「居民委員会」が設立されたこともあり、開発が進んだ中心部でも、みちづくりの市民「参加」が行われるなど、コミュニティの取り組みが中国の中でも先進的な地域である。こういったスケールや多様性の異なる地域を比較し、各都市の都市課題を背景とした分析を行うことで、選択可能な社区運営マネジメントのあり方を明らかにする。
これらを実現するための研究体制として、まず上海市周辺における研究では、上海市にある建築・都市計画研究で優れた業績をあげている同済大学等との協力体制を構築する。さらに、杭州では浙江大学との協力関係で研究を行う。すでにこれまでの研究で、市の都市計画局とは何度も議論を行ってきており、関係が構築されている。こういった行政との連携体制をもつことで、文献・資料収集を行うことができる。
４．研究成果
初年度である平成２３年度は、「社区参加のプロジェクトのモデル的実践と自律的な社区改善の実態調査」を行うことを目的として調査・研究を行った。第一に杭州市では、社区参加による地域改善の可能性を検討するため、浙江大学の協力のもと、社区コミュニティへのヒアリング、および杭州市と区へのインタビューによって地域課題や地域意識の分析を行った。また、地域改善のあり方を検討する材料として、空間実態の調査を行った。杭州市での調査対象地区は浙江大学、杭州市政府との議論の結果から、アーバンビレッジとして都市内に残る農村である「望江地区」とした。また第二に上海市では、「伝統的居住空間と、創造拠点による自律的な社区改善の実態」を調査・分析した。上海市では残存した伝統的居住空間の中で、創造拠点の形成が、政策的にだけでなく、自律的にも進められてきていたことから、そういった伝統的居住空間と自律改善の全体像の実態を市内全体で明らかにし、どのようなオルタナティブが実際に進んでいるのかを明らかにした。平成２３年度は創造拠点の市内の全体像を踏まえ、周辺地域と共存した更新が行われている、創造拠点である静安別墅を対象として調査を行った。これらの結果から、行き過ぎたジェントリフィケーションを起こすことなく自律的改善が行われていく実態を明らかにし、その地域変化のメカニズムについて分析した。
続いて平成２４年度には、杭州に関する研究は浙江大学との連携の中で、前年度のプロジェクトから出た課題をもとに、継続したコミュニティ連携による地域改善のための検討を行った。杭州市の歴史を文献調査で明らかにし、都市の全体の位置づけを再確認した後、ヒアリング、空間調査などの現地調査を行い、住環境改善、コミュニティ連携のための提案を作成した。その中で、コミュニティの背景別の地域への認識分析を行い、今後の改善へのコミュニティ連携のための課題を明らかにした。また、主体形成と連動した空間形成のあり方を提案した。具体的に対象としたのは、前年度から引き続き「望江地区」と、新たに選定した「湖浜地区」であり、これらの地域は都市内に取り残されたアーバンポケットである。この地域において、悉皆調査を行い、コミュニティにヒアリングし、権利別・立場別の課題と住環境の空間実態を明らかにすることで、コミュニティとの連携スキームの考察を行った。
次に上海に関する研究として、前年度の全体像の実体解明から、特に態勢が自律的なもの、および社区空間が変化したものについて、さらに詳細な分析を行った。主体へのヒアリング調査、及び空間の調査を行い、中国独自の景観や空間構成の原理を踏まえた、社区の自律運営に資する環境形態である「環境アーキタイプ」の検討を行った。その中では、創造的産業の勃興からうまれた自律的な運営主体と、それまでの住環境レイヤーとのギャップから、新しいアーキタイプがうまれつつある実態が明らかになった。
最終年度である平成２５年度は、まず杭州市では、「社区参加プロジェクトの実践を通したアクション・リサーチにより、参加の態勢と手法のあり方を明らかにする」という当初の目的のもと、春にコミュニティの実態調査を行った後、研究協力者である浙江大学との協働で、学生による歴史的なインナーシティのコミュニティの集中調査を行い、社区参加の実践プログラムの提案を行った。これらの事前調査の結果のもと、具体的にコミュニティと行政の協力を得られる場所として、杭州市の二十三坊の中に残された市場に隣接した居住ユニットを研究対象と選び、現地との

連携を行った。コミュニティの積極的参加による自律的な住環境改善の方法論と、空間としての計画案を作成するべく、文献調査・コミュニティへのヒアリング調査・現地専門家との意見交換を行い、アクション・リサーチとして実際に社区居住住民と政府関係者、専門家が参加するワークショップを行った。そこで、現実としての住民の課題をすいあげ、その結果も踏まえて行政に「社区参加による自律的な社区空間マネジメント」の提案を最終成果として行った。また、この結果は浙江大学城市学院において公開発表会を行うことで、広くフィードバックした。

図：社区参加ワークショップの様子(2014 年 3 月)

一方上海市では、継続的な実態調査として、すでに自律的な社区改善が自然発生的に起こっている地域を、対象地域を拡大して現地調査を行った。対象地域は自律的な社区改善の動きが見られる都心部の複数街区とした。現地踏査、変化の実態記録、インタビュー調査を行い、空間面とコミュニティ面による創造的な自律改善の実態を明らかにした。3 年間の継続的な変遷調査の結果として、地域特性と自律的変化のありかたについて分析することができた。

## ５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 内田 奈芳美・真野 洋介・趙 城埼・佐藤滋「都市秩序の変容に伴う「半開放」による住環境の変容モデルに関する研究 −中華人民共和国・上海市を事例として−」日本建築学会計画系論文集 68 号、pp.2799-2807、2012、査読有

〔学会発表〕（計６件）

① 益子智之・菊地原雄馬・張暁菲・内田奈芳美・趙城埼・佐藤滋「杭州市中心部・湖浜地区におけるジェントリフィケーションと自律的居住環境の変質実態に関する研究-杭州市の都市変容と住環境改善段階に関する研究（３）」日本建築学会大会 2014 年 09 月 12 日～2014 年 09 月 14 日、神戸大学

② 川副育大・竹橋悠・ 加納亮介・内田奈芳美・佐藤滋「杭州市における農村基盤高密居住地（城中村）の再生」日本建築学会大会、2013 年 08 月 30 日～2013 年 09 月 01 日、北海道大学

③ 加納亮介・川副育大・ 竹橋悠・内田奈芳美・佐藤滋「杭州市の都市変容と住環境改善段階に関する研究（2）望江地区の城中村を中心とした生活領域の実態」日本建築学会大会、2013 年 08 月 30 日～2013 年 09 月 01 日、北海道大学

④ 関谷有莉・田邊真由子・ 張暁菲・真野洋介・佐藤滋「東アジア・大都市インナーシティにおける自律的な居住環境の持続・再生(1) 上海市南京西路歴史文化風貌区における居住環境、創意産業の併存実態に着目して」日本建築学会大会、2013 年 08 月 30 日～2013 年 09 月 01 日、北海道大学

⑤ 田邊真由子・関谷有莉・ 張暁菲・真野洋介・佐藤滋「東アジア・大都市インナーシティにおける自律的な居住環 境の持続･再生 (2) 上海市静安別墅における居住者と創意店舗の併存体制の構築に着目して」日本建築学会大会、2013 年 08 月 30 日～2013 年 09 月 01 日、北海道大学

⑥ 小野田理奈・川副育大・小堀玲奈・宋暁丹・加納亮介・内田奈芳美・佐藤滋 「杭州市の都市変容と住環境改善段階に関する研究(1)：望江地区の城中村における居住空間構成の実態」日本建築学会大会、2012 年 09 月 12 日～2012 年 09 月 14 日、名古屋大学

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

## ６．研究組織

(1)研究代表者
佐藤 滋（SATOH, Shigeru）
早稲田大学・理工学術院・教授
研究者番号：60139516

(2)研究分担者
真野 洋介（MANO, Yosuke）
東京工業大学・社会理工学研究科・准教授
研究者番号： 70329134

内田 奈芳美（UCHIDA, Naomi）
金沢工業大学・環境・建築学部・講師
研究者番号： 10424798

(3)研究協力者
趙 城埼（CHO, Jyouki）
早稲田大学・理工学研究所・客員研究員
研究者番号：3034294